令和８年 10 月 30 日

保護者の皆様

川崎市立南菅中学校
校長　野島　隆行

令和８年度　川崎市学習状況調査、全国学力・学習状況調査
結果の概要と今後の取組について

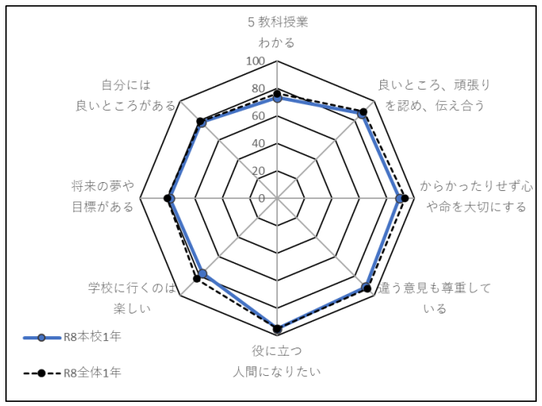
日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。４月 14 日（火）に行いました１～３年生対象の川崎市学習状況調査の結果と、４月 23 日（木）に行いました３年生対象の全国学力・学習状況調査の結果をご報告します。本校では学校教育目標（育成を目指す資質・能力、目指す生徒像等）の実現に向け、日々の教育活動に取り組んでおり、今後は本調査結果を生かした取組をさらに進めてまいります。なお、本調査によって測定できるのは生徒の実態の一部であり、学校における教育活動の一側面ですので、本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えください。また取組の様子は、今後の学校だよりや学年だより、学校運営協議会等でもお伝えします。

学校教育目標（育成を目指す資質・能力、目指す生徒像等）

知・徳・体・意の調和のとれた、人間性豊かな生徒を育成するために

1　正しい判断力を身につけ、自ら学ぶ意欲を持つ人
2　礼儀正しく、思いやりのある、明るい人
3　健全な心身を持ち、勤労を愛する人
4　責任感と忍耐力のある人

令和８年度　川崎市学習状況調査　１年生

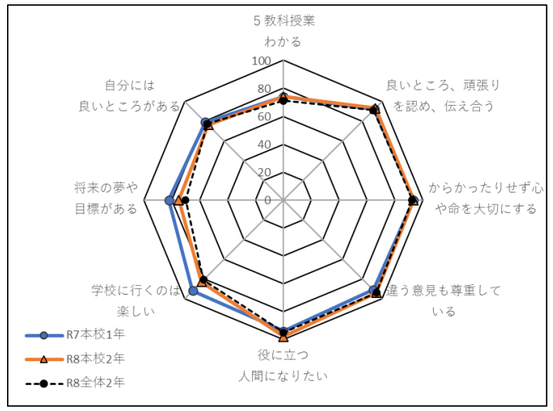


	５教科 思考・判断・ 表現	５教科 知識・技能	主体的に 学習に 取り組む態度
R8本校1年	53	69	74
R8全体1年	54	69	77

・５教科（国社数理英）の観点別関連問題の正答率からみると「知識・技能」、「思考・判断・表現」の能力については全体（全国平均）と同程度である。また「主体的に学習に取り組む態度」、「５教科授業がわかる」の意識調査のポイントは全体（全国平均）をやや下回っている。このことから、生徒に合わせた学習目標を設定し、目標の達成によって授業がわかったという達成感を得ることで、その後の主体的な学習に取り組む態度を身につけさせたい。

・「学校に行くのは楽しい」と感じている生徒の割合は全体や他学年と比較するとやや低い。入学したばかりの時期で、中学校生活に戸惑ったり、人間関係の構築がまだ十分ではないことも影響している可能性がある。今後の学習や特別活動等を通して学ぶ楽しさや人間関係を充実させながら、生徒一人一人が有意義な学校生活を送れるようにしたい。他者を尊重する項目については比較的高いポイントを示しており、望ましい人権感覚を備えている生徒が多い。継続して人権の意識を涵養したい。

令和８年度　川崎市学習状況調査　２年生

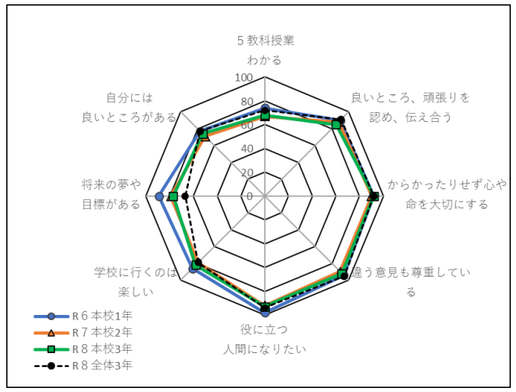


	５教科 思考・判断・ 表現	５教科 知識・技能	主体的に 学習に 取り組む態度
R7本校1年	55	69	―
R8本校2年	47	59	81
R8全体2年	47	61	74

・学習面に関して５教科（国社数理英）の「思考・判断・表現」、「知識・技能」関連問題の正答率は昨年より下がっている。これは学年が進むにつれ、学習内容の難易度が上がることによる一般的な傾向と思われる。本校の正答率は全体（全国平均）のポイントとは大きな差異がなく、意識調査の「主体的に学習に取り組む態度」のポイントは高いので、より一層の授業改善を図り、生徒が意欲的に学習課題を見つけ、解決に取り組み、自己の能力を向上させるよう指導していく。

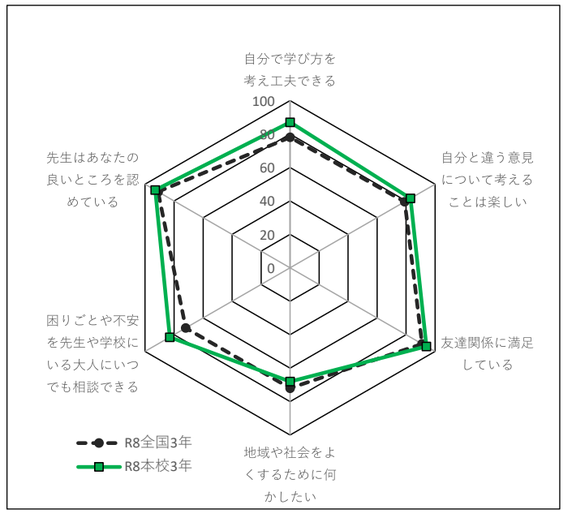
・他者を尊重することに関連する項目は高いポイントを示している。特に「違う意見も尊重している」は昨年より３ポイント上がっている。他者の考えを否定しない態度は互いに自分の考えを伝え合い、より良い関係性を構築することにつながる。今後もこうした意識を育む教育を推進したい。「学校に行くのは楽しい」と感じている生徒のポイントが昨年より低下したが、これは比較的学力下位層の生徒のポイントが下がった結果である。学習へのつまづき等が原因となっている側面もあるので、対応していきたい。

令和８年度　川崎市学習状況調査　３年生



	５教科 思考・判断・ 表現	５教科 知識・技能	主体的に 学習に 取り組む態度
R6本校1年	57	70	―
R7本校2年	55	67	―
R8本校3年	57	63	74
R8全体3年	51	60	75

全国学力・学習状況調査　３年生



・学習面に関しては５教科（国社数理英）の「思考・判断・表現」、「知識・技能」の関連問題の正答率および意識調査の「主体的に学習に取り組む態度」はほぼ全体（全国平均）と同程度、もしくはそれ以上であり、自分の学び方を工夫しながら、一定の学習成果をあげていると捉えることができる。しかし、「授業がわかる」という実感を得ている生徒の割合は全体よりやや低いので、授業等において一人一人に合わせた小さな到達目標を確実に達成し、次のステップへの意欲を喚起する工夫を施したい。

・他者を認め、大切にする人権尊重の意識や態度、思いやりの気持ちを有する割合は比較的高い。しかし「自分には良いところがある」という自己肯定感の低い傾向が、これまで本校生徒の課題であり、特別活動や行事等の主体的な活動を通して成功体験を積むことで解決を図ってきた。３年生は昨年よりも２ポイントほど割合が高くなり、一定の成果も認められるが、さらに自己肯定感を高められるような働きかけを継続したい。「将来の夢や目標がある」という生徒の割合は全体と比べても約 10 ポイント高く、また社会において貢献したいという思いを持っている生徒も多い。「キャリア在り方生き方教育」の成果と捉えることができる。こうした意識が今後の進路選択に生かされ、社会的自立につながるよう進路指導を行いたい。